

第8回 TIAナノグリーン・サマースクール開催報告



都倉 康弘 教授

筑波大学数理物質系

環境・エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが8月25日から27日の日程で開催されました。実施・運営を行った都倉康弘教授(筑波大学数理物質系)にお話を伺いました。

TIA サマー・オープンフェスティバルの一つとして、今年もTIA ナノグリーン・サマースクールが3日間の日程で開催されました。今回はこれで第8回目となります。今年度は新型コロナの感染拡大の影響で、オンラインでの実施となりました。またその影響で、これまで恒例だった初日午後の物質・材料研究機構の訪問は残念ながら中止となりました。このスクールの対象はナノグリーン分野の研究に興味を持つ大学院生および社会人です。今年の参加者は例年より少し少なく、筑波大学生計6名の申し込みがありました。申し込んだ学生には、あらかじめ自分の研究テーマ等に関するA4 1枚の概要を提出してもらい、講師やアドバイザーの先生方と情報を共有しました。参加者が少なかったのは残念でしたが、できれば来年度はより効果的なスクールの広報活動を行って、つくば地区以外のより多くの学生・社会人にも参加してもらい研究交流の場を提供していきたいと思っております。

本サマースクールのプログラムは、ナノグリーンに関連する基礎から先端研究を含んだ講義によって構成されています。スクール参加者は3日間にわたり、太陽電池、光デバイス、先端計測、放射光による分析などについての講義を熱心に受講しました。講義の先生方には慣れないオンラインの講義にも関わらず、わかりやすい講義を熱心に行って頂きました。ネットワークの不調など、大きな技術的なトラブルもなくスクールを終えることができホッとしているところです。

スクールのプログラムを紹介いたしますと、1日目は、始業式で参加者のオンラインでの自己紹介をした後2コマの講義がありました。2日目は午前には講義、午後には受講者によるプレゼンテーションセッションが行われました。発表は一人10分で、質疑応答の時間が5分です。国立研究所のアドバイザーの先生などから様々な形での討論や提言が行われました。また短い準備時間ではありますが「ナノグリーンに関する見識や提案」に関するレポート課題についてまとめてもらいました。3日目の講義終了後、修了式が行われました。受講生に修了証書が授与され、引き続いて、ポスター発表とレポートが優秀と認められた3名の学生に奨励賞が授与されました。

全体を通じて、講義、発表とも、受講者が積極的に参加していたのがとても印象的でした。将来、受講者が社会に出て活躍し、本スクールの経験が活かされればと思います。

Microsoft Teamsによるチーム



Microsoft Teams

開催日	2020年8月25日(火)～8月27日(木)
会場	Microsoft Teamsによるオンライン授業
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科、エネルギー物質科学研究センター(TREMS)
共催	物質・材料研究機構(NIMS)
構成	講義7コマ+プレゼンテーションセッション(レポート提出)
参加者数	6名(大学院生 6名)
修了証	6名に授与
受賞者	奨励賞(プレゼンテーション+レポート)3名